

製品名: エノラーゼウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10476**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	47kDa

抗原情報

遺伝子名	ENO2
別名	ENO2; Gamma-enolase; 2-phospho-D-glycerate hydro-lyase; Enolase 2; Neural enolase; Neuron-specific enolase; NSE
遺伝子 ID	2026.0
SwissProt ID	P09104
免疫原	抗血清はヒト NSE 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 371-420

背景

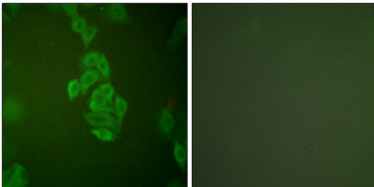
エノラーゼ 2(ENO2) ホモサピエンス この遺伝子は、哺乳類に見られる 3つのエノラーゼアイソザイムのうちの1つをコードしている

す。このアイソザイムはホモダイマーであり、成熟ニューロンおよびニューロン起源の細胞に存在します。ラットおよび霊長類では、発達過程において神経組織において α エノラーゼから γ エノラーゼへの切り替えが起こります。[RefSeq 提供、2008年7月]、触媒活性: 2-ホスホ-D-グリセリン酸 = ホスホエノールピルビン酸 + H₂O、補因子: マグネシウム。触媒作用および二量体の安定化に必要。、発達段階: 個体発生の過程で、横紋筋細胞では α/α ホモ二量体から α/β ヘテロ二量体へ、神経細胞では α/γ ヘテロ二量体へと遷移する。、機能: 中枢神経系 (CNS) ニューロンの広範囲にわたり、神経栄養作用および神経保護作用を有する。カルシウム依存的に培養された大脳新皮質ニューロンに結合し、細胞生存を促進する。、誘導: 心血管事故、脳外傷、脳腫瘍、およびクロイツフェルト・ヤコブ病では、ENO2レベルが劇的に上昇する。、経路: 炭水化物の分解、解糖 D-グリセルアルデヒド 3-リン酸からピルビン酸を生成する: ステップ 4/5。、類似性: エノラーゼファミリーに属する。、細胞内局在: ホモ二量体 (α/α) またはヘテロ二量体 (α/γ) のいずれの形態でも細胞膜に移行できる。、サブユニット: 哺乳類のエノラーゼは、 α 、 β 、 γ の3つのアイソザイムサブユニットから構成され、細胞の種類や発達に特異的なホモ二量体またはヘテロ二量体を形成する。、組織特異性: α/α ホモ二量体は胚およびほとんどの成体組織で発現する。 α/β ヘテロ二量体と β/β ホモ二量体は横紋筋に、 α/γ ヘテロ二量体と γ/γ ホモ二量体はニューロンに発現する。、

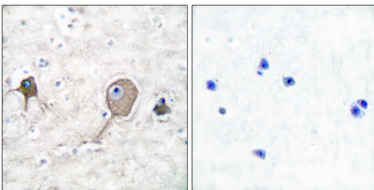
研究分野

解糖系/糖新生;RNA 分解;

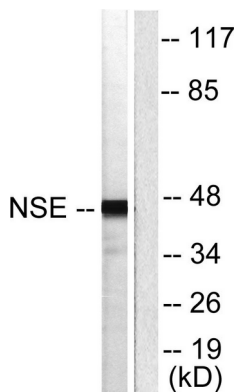
画像データ



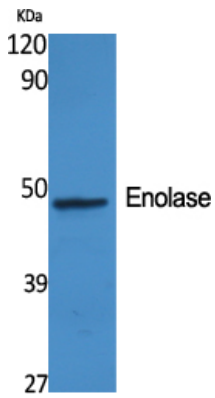
NSE 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



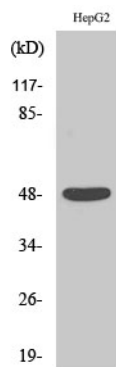
NSE 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



NSE 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 2000 希釈のエノラーゼポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



エノラーゼポリクローナル抗体 (1: 2000 希釈) を用いた HepG2 細胞のウェスタンブロット解析